

所属	看護医療学部看護学科	職位	教授	氏名(学位)	柿原 加代子 (社会福祉学修士)	
所属学会	日本看護協会、日本看護教育学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本赤十字看護学会、日本看護医療学会、日本国際情報学会					
専門領域	基礎看護学					
研究テーマ	基礎看護技術、看護教育、患者心理、生活支援技術、看護教育方法、継続教育、看護理論					
I 主な教育活動						
教育実践上の主な実績						
1 教育・内容の工夫 (授業評価等を含む)	・「看護学総論」において、闘病記 (患者自身が著したもの) を読んで患者の健康障害とその影響について理解を深める目的で、個人レポート、グループワーク、発表を課している。具体的には、①闘病記の看護の対象の発達課題、②健康障害の状況、③健康障害による影響 (心身、日常生活及び社会生活)、④①～③からの気づき、学び、今後の学習課題等である。					
2 作成した教科書、教材、参考書	・総合看護論実習の手引き作成 : 総合看護論実習の目的、目標、内容、実習記録、実習評価、実習における注意事項について作成した。					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育上特記すべき事項						
II 主な研究活動						
種別	著書・論文等の名称	単著 共著	発行年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	頁数
学術論文	肺癌患者の闘病記における告知後の病期別心理過程—Holland「がん患者の危機に対する正常な反応」モデルを用いて—	共著	2015年2月	国際情報学会誌「国際情報研究」12巻1号	柿原加代子、草野純子、市川恭子	36-43
	パフォーマンス評価の考えを導入したフィジカルアセスメント授業取組の検討	共著	2015年2月	国際情報学会誌「国際情報研究」12巻1号	草野純子、 <u>柿原加代子</u>	44-56
	医療処置を必要とする患者・家族への在宅療養に向けての退院支援—病棟看護師に求められる支援—	共著	2015年12月	日本国際情報学会誌「国際情報研究」13巻1号	平山 恵美子、 <u>柿原加代子</u>	72-79
	闘病記における乳がん患者の告知後の心理過程—Holland「がん患者の危機に対する正常な反応」モデルを用いて—	共著	2015年12月	日本国際情報学会誌「国際情報研究」13巻1号	<u>柿原 加代子</u> 、平山恵美子、宮田 智子	86-93
	中小規模病院に継続勤務する看護師のキャリアアップに関する認識	共著	2016年6月6日	日本看護医療学会雑誌第18巻、No. 1	大野晶子、 <u>柿原加代子</u> 、東野督子他	11~21
	中小規模病院に勤務する看護師への研究支援プログラムの開発—大学と病院との連携—	共著	2016年9月1日	日本医学、第67巻、第2号	東野督子、石黒千映子、大野晶子、水谷聖子、 <u>柿原加代子</u> 他	309-314
	大学として取り組むことができることが中小規模病院における看護研究支援プログラムの実践効果—データ収集から分析支援の展開期—	共著	2017年11月24日	日本看護医療学会雑誌第19巻2号	杉村鮎美、東野督子、水谷聖子、石黒千映子、大野晶子、 <u>柿原加代子</u> 、三河内憲子	72-81
	キャリアアップおよびキャリア開発ラダー遂行に関する中小規模病院勤務看護師の認識	共著	2018年3月	日本赤十字豊田看護大学紀要13巻1号	石黒千映子、杉村鮎美、大野晶子、水谷聖子、 <u>柿原加代子</u> 、東野督子、三河内憲子	83-93

種別	著書・論文等の名称	単著 共著	発行年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	頁数
	中小規模病院における看護師支援プログラムの実践と評価（導入期）	共著	2018年5月	インターナショナル Nursing Care Research	柿原加代子、大野晶子、東野督子、水谷聖子、杉村鮎美、石黒千映子、三河内憲子	39-49
	Web型看護研究支援システムを取り入れた看護研究支援の評価-中小規模赤十字病院におけるキャリア開発プログラムの促進に向けて-	共著	2020年10月	インターナショナル Nursing Care Research	東野督子、水谷聖子、石黒千映子、大野晶子、柿原加代子、杉村鮎美、三河内憲子	53-62
	テーマ：日本における「ケアリング」研究の動向と課題 -「ケアリング実践」に関する研究の看護・社会背景からの検討-	共著	2021年3月	文化情報研究 第2号	柿原加代子、草野純子、林香純	
	手の力の可能性 -触れることの影響について事例からの考察-	共著	2021年3月	文化情報研究 第2号	草野純子、林香純、柿原加代子、安田裕子	

III 主な学会活動

発表(報告)名等	単独 共同	発表年月	学会名等
中小規模病院における看護師への研究支援プログラムの実践と評価（導入期）	共同	2015年8月	第41回日本看護研究学会学術集会
中小規模病院における看護師への研究支援プログラムの実践と評価（展開期）	共同	2015年12月	第35回日本看護科学学会学術集会
中小規模病院における看護師への研究支援プログラムの実践と評価（発表支援期）	共同	2015年10月	第17回日本看護医療学会学術集会
Web会議を導入した研究支援プログラムの導入期における効果の検討	共同	2017年8月30日	第43回日本看護研究学会学術集会
Trends and challenges in research on “caring” in Japan-The nursing and social perspectives	共同	2020年1月10日	EAFONS2020
Why Touch Research Necessary in In the Alera-Based on a Uterature Review On Touch and Caring	共同	2020年1月10日	EAFONS2020

IV 社会における主な活動

活動期間	活動内容等
2017年8月29日・30日	日本看護研究学会第43回学術集会において、口演発表会場の責任者を務める。
2019年2月	三重県看護研究会誌 査読を務める。
2020年10月7日	高齢者セミナーの企画・実施。テーマ：いつまでも自分の足で歩くために！！ーロコトレ（ロコモーショントレーニング）でロコモ（ロコモティブシンドローム）を予防しましょうー、講義内容（コモとは、ロコモの原因、ロコモ度のチェック）、演習内容（ロコモ度チェック、ロコトレ）。参加者は30名、アンケート結果は、わかりやすかった63.3%で、ロコモについて詳しく理解できた。自身のロコモ度を把握でき、自身の生活を改善したいなど概ね好評であった。
2020年8月4日	三重県生涯学習センター企画のみえアカデミックセミナーにて講師を務める。テーマ「コミュニケーション力をアップし豊かな自己成長をめざす」
2020年12月5日	日本国際情報学会 2020年度 大会の大会委員長を務め、オンラインによる開催の企画・開催運営（基調講演・特別講演・研究発表会）を行った。テーマ「多様性社会における人間力の発見・探求・創造」、基調講演：名誉教授 登 勉氏「ゲノム情報は医療と疾病予防に貢献できるか」、特別講演：船戸クリニック院長 船戸崇史氏「臨床から見える人間力」